

全国規模での研究用臨床データ活用：  
ドイツ医療情報学イニシアチブの MIRACUM コンソーシアム

構造化された臨床データは日常的な臨床ケアの過程で日々大量に生成されていくが、それらの研究目的での使用は多くの障壁によって妨げられている。これらの問題を解決すべく、MIRACUM コンソーシアム (Medical Informatics in Research and Care in University Medicine 大学医学研究・ケアのための医療情報学) が 2015 年にドイツで設立された。MIRACUM では 10 のドイツの大学病院が連携し、データ構造とインターフェースといった技術面やデータ保護規則やガバナンスをカバーしながら、問題解決に全国規模で取り組んでおり、各地点のデータ基盤を確立し、またそれらの活用法を臨床ユースケースで示すといった活動を行っている。本コンソーシアムは、相互運用可能な基盤の整備を目指した医療情報学に関する 4 つのコンソーシアムの一つとして、ドイツ連邦教育研究省からの助成を受けて設立されたが、そのうちで最大規模を誇る。本発表では、課題、国際標準規格に適合したプラットフォームをベースにした実装戦略、現在までの研究成果、そしてデータ基盤の将来的な臨床・科学的応用への展望を提示する。